

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	◎	観光名所（職員）	・夏休みや9月の大型連休の需要増加により、景気は回復するとみている。
	○	百貨店（経営担当）	・地元客の旧盆需要や夏休み期間中の家族連れ来店により、来客数の増加が見込まれる。
	○	一般レストラン（代表者）	・夏休みに入り、地元客、観光客共に増加するとみている。
	○	通信会社（サービス担当）	・今後予定されている新型スマートフォンや新サービスの投入に加え、既存顧客の更新期も重なることから、来客数、契約件数、売上の増加が期待される。
	○	観光名所（職員）	・インバウンドの問合せが増加している。
	○	住宅販売会社（営業担当）	・分譲住宅や注文住宅の需要は堅調に推移しており、中東情勢の影響に伴う資材不足も改善傾向にある。
	□	商店街（代表者）	・飲食店が増加する一方、小売店は減少傾向にあり、景気判断は難しい状況にある。
	□	スーパー（企画担当）	・7月の好調は天候の影響による部分が大きく先行きは不透明である一方、国の電気・ガス料金負担軽減支援により、購買意欲の大幅な低下は考えにくく、当面は現状と同水準の好調を維持するとみている。
	□	スーパー（店舗管理）	・旧盆商戦は、観光客の増加や前年との日程差を踏まえ、来客数は前年の数値からやや増加するとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・自治体発行のプレミアム付商品券の利用増加を背景に、売上は増加するとみている。
	□	コンビニ（店長）	・観光客や地域在住の外国人客が客単価と売上を下支えしている一方、商品値上げの影響で中食や日用品の販売数量は鈍化しており、全体では横ばいで推移するとみている。
	□	コンビニ（経営企画担当）	・飲料やアイスクリームは好調である一方、値上げ幅の大きい中食は厳しい状況が続いており、売行きは天候の影響を受けるとみられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・夏のセール期であるものの売上は伸び悩んでおり、現時点では有効な打開策はみえていない。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・来客数や客の反応に大きな変化はなく、現状維持とみられる。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・当面は現状と変わらない見込みである。
	□	その他専門店〔陶器〕（製造）	・夏休み終了後は一時的に落ち着くものの、その後は秋のイベント期に向けた準備が本格化する。
	□	その他専門店〔書籍〕（部長）	・7～8月は人流が活発な時期であるため、秋頃には現在より落ち着いた状況になるとみている。
	□	その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・7～9月は観光需要が高まる時期であり、大学生等の夏休みが9月まで続くことも来客数増加の要因となる。
	□	観光型ホテル（専務取締役）	・夏の繁忙期後は先行きに不安があるものの、物価上昇による旅行需要の減少を、海外旅行から国内旅行へ切り替える客層の需要が補うことから、今後数か月は横ばいで推移すると見込んでいる。
	□	観光型ホテル（総支配人）	・年末に向けた団体需要は堅調で、個人旅行は夏以降の需要分散に期待している。
	□	通信会社（営業担当）	・代理店元による手数料の減額が続いており、大企業では利益が出ている一方、その恩恵が中小企業まで十分に波及していない。
	□	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年並みで推移しており、顧客別にも大きな変動がないことから、今後も現状維持が見込まれる。
	□	住宅販売会社（役員）	・住宅需要の停滞が続く一方で、事業用需要は堅調に推移しており、両者が均衡することから、今後も景況は大きな変化なく横ばいで推移すると見込まれる。
	▲	一般小売店〔酒〕（店長）	・物価高対策を早急に取りまとめ、速やかな実施を期待している。
	▲	コンビニ（店長）	・7月は繁忙期のため来客数や客単価が好調に推移しており、今後は現状以上の大幅な伸長は見込みにくい。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・円安が進行する現状では、景況は改善よりも悪化する可能性が高いとみている。

	▲	家電量販店（営業担当）	・おきなわ省エネ家電購入応援キャンペーン終了に伴い、エアコン需要は落ち着くとみている。
	▲	観光型ホテル（企画担当）	・7月の販売室数が前年比18%増加に対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比5%増加で、プラス幅が小さくなっている。
	▲	旅行代理店（マネージャー）	・物価高の影響で、中小企業の経営は厳しさを増している。
	×	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・物価高など景気悪化要因はある一方、景気を押し上げる材料は見当たらない。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	食料品製造業（総務部）	・物価高騰の影響で消費者の節約志向が強まっていたものの、足元では現状の水準に慣れつつある。今後も注視は必要であるが、消費マインドは改善傾向にあるとみている。
	○	窯業土石業（取締役）	・受注済み工事の着工が来月以降に集中するため、年内は繁忙な状況が続くとみている。
	○	輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉等の成果だとみている。
	○	輸送業（経営企画部）	・中東情勢の影響による輸送コストの上昇や輸送遅延が懸念されるものの、代替航路の活用等により物流機能は維持されている。また、台風を見据えた荷主による在庫積み増しの動きが見込まれる。
	□	通信業（総務）	・夏の観光需要による観光客増加や商業施設のにぎわいから景況感はやや良好である一方、物価上昇による生活負担は継続している。
	▲	建設業（経営者）	・建設資材価格の上昇が続く中、中東情勢の影響も懸念されており、受注前後の原価上昇による利益率の低下が見込まれる。
	▲	広告代理店（ストラテジックプランニング部）	・中東情勢の長期化に伴い、エネルギーや資材価格高騰が継続すると見込まれることから、企業ではプロモーション費用を抑制するとみている。
	▲	会計事務所（所長）	・国際情勢や為替動向の影響次第だが、今後の動向は、やや悪くなるとみている。
	×	*	*
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（審査）	・年末商戦や観光需要による求人増加が見込まれる一方、賞与後の転職活動活発化により、採用環境は引き続き厳しい状況が続くと見込まれる。
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	・2028年3月卒業予定者向けの説明会依頼や求人票の増加により改善が期待されるものの、一部企業では採用枠縮小の動きも見られ、先行きは厳しい状況が続くと見込まれる。今後は求人企業への丁寧な対応と、就職希望者へのきめ細かな支援が重要になるとみている。
	□	人材派遣会社（総務担当）	・夏に向けて観光業の景況改善が期待されるものの、人手不足の解消には至っていない。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・インフレの状態がしばらく続くとみている。
	▲	—	—
	×	—	—